

【昨年度の取組】

取組 ※「結果・分析・取組シート 4 取組」を転記

①生活場面に生かせる学習内容を抽出し、計画的に教材研究を進める。

②一人一人の子どもに合った指導と評価をする。1時間の授業で2回の評価(ダブルチェック)を行い、自己肯定感を高められるようにする。

③語彙力の育成に向けて、意味を想像させながら意味調べをさせる。辞書に触れる機会を意図的に設ける。

④長文については、段落相互の関係把握等ができるよう指導をする。

⑤授業中に、見通しの時間を十分にたてる。小集団や集団解決では、ノートや図表をもとにして、相手意識のある説明ができるように取り組む。

⑥小集団の話し合いの場を、児童の必要に応じて設け、その良さが実感できるようにする。

取組状況(どう取り組んだか)

①②研究授業や各担任が授業の見学をし合うこと等を通して、教材研究への意識を高め、生活に関連付けた課題設定や評価方法を共有した。

③語彙力の育成に向けて、語句の意味を動作化や絵や図での視覚化、意味調べワークシートの作成を行った。

④接続語に着目させ、前後の文章との関係を考えたり、構成表によって文章の構造を捉えたりする授業づくりをした。

⑤低学年・中学年・高学年と説明の仕方についての指導内容を検討し、発達段階を考慮した取組を実施した。

⑥解決方法の選択肢(一人・ペア・グループ・先生など)を与えることで、個別最適な学びを推進した。

【校内研究体制の構築・再構築】

※「福山 100NEN 教育」9th year 基本的な考え方 P4,13,17 を参照

児童が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり
～指導と評価の一体化を基盤とした授業づくりを通して～

研究体制

研究教科:算数科

☆指導と評価の一体化を
基盤とした
主体的・対話的で
深い学びの実現

- 1) 児童の実態把握 (A・P)
【方法】アンケート・テスト
自己肯定感・学力の把握
- 2) 授業づくりの深化 (P・D)
【方法】教材研究
1 学期:基礎学力定着期
2 学期:思考判断表現力育成期
3 学期:活用挑戦期
- 3) 実態把握・指導・評価の往還
【方法】校内研修 (C・P)
指導方法等の検証と改善策の
検討による授業改善

研修計画

教育研究構想
・研究主題・重点目標の設定

校内授業研究, 日常の授業
・教材の価値や面白さ
・学ぶ内容の資料の精選
・子どもの実態, 教材への理解に基づいた学習計画
・自己肯定感を高める評価
学びづくり案検討, 模擬授業,
日々の教材研究からつなげる。

授業の検証・改善
授業研後の協議は、以下の内容で行う
・視点に基づいた振り返り
(個に応じた学びが深まる手立て、
児童の主体的な学び)
・改善点をいかした授業計画
授業研の学びや課題を次の授業研や
日々の授業に還元していく。

【取組の結果】

(1) 全国学力学習状況調査

〔児童質問紙〕(%)

番号	質問事項 (「主体的・対話的で深い学び」に関する項目)	「1」「2」を回答した児童の割合			
		国	自校現小6生		自校 現小5生
			今年度	昨年度 (小5時)	
29	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	67.6	50.0	68.0	71.4
30	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	81.9	67.9	92.0	85.7
31	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	79.6	57.2	95.8	81.0
32	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。	84.3	60.7	87.5	85.7
33	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	86.3	85.7	92.0	81.0
34	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	80.8	78.5	91.7	61.9
35	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができていると思いますか。	83.7	82.2	96.0	95.2
36	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。	87.9	92.8	—	90.4
37	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	91.6	92.9	—	85.7
29～37の意識合計		743.7	668.0	—	738.0

〔正答率〕(%) ()内は国平均

	2022 (R4)			2023 (R5)			2024 (R6)		
	正答率	無答率	40%未満	正答率	無答率	40%未満	正答率	無答率	40%未満
国語	53.0 (65.6)	19.9 (5.7)	31.6 (15.0)	64.0 (67.2)	6.1 (4.8)	9.5 (11.1)	68.0 (67.7)	6.1 (4.2)	3.6 (11.9)
算数	52.0 (63.2)	12.8 (3.5)	26.3 (17.8)	57.0 (62.5)	2.4 (3.4)	23.8 (19.5)	61.0 (63.4)	0.7 (3.4)	17.9 (20.1)
合計 平均	105.0 (128.8)	16.4 (4.6)	29.0 (16.4)	121.0 (129.7)	4.3 (4.1)	16.7 (15.3)	129.0 (131.1)	3.4 (3.8)	10.8 (16.0)

理科を除く

〔調査問題〕※ 課題となる問題を選択し、課題と考えられることを記入

	問題番号	要因(何を課題と考えるか)
国語	1三	選択肢の文の意味が理解できていない。選択肢の文章を比較し、違い(①言葉の違い⇒②意味の違い)を明らかにした上で適切なものを判断する。
算数	4(2)	速さ・時間・道のりそれぞれの意味や関係性を正確にとらえ、図等に表して考える力が弱い。

(2) 学力の伸びを把握する調査

※ 学年平均を記入

〔学習方略〕()内は市平均

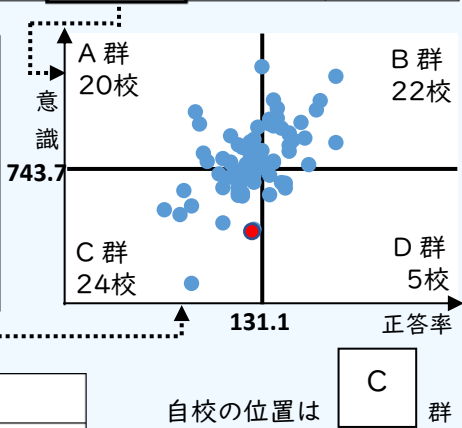
	柔軟的方略			プランニング方略			作業方略			認知的方略			努力調整方略		
	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6
4年	—	—	3.7 (3.7)	—	—	3.6 (3.7)	—	—	3.6 (3.6)	—	—	4.0 (4.0)	—	—	3.5 (3.8)
5年	—	3.4 (3.4)	3.5 (3.6)	—	3.3 (3.5)	3.5 (3.6)	—	3.4 (3.5)	3.4 (3.5)	—	3.9 (3.7)	3.8 (3.9)	—	3.9 (3.8)	3.4 (3.7)
6年	3.5 (3.5)	3.4 (3.4)	3.7 (3.6)	3.7 (3.5)	3.2 (3.5)	3.5 (3.6)	3.5 (3.5)	3.3 (3.4)	3.3 (3.5)	3.8 (3.7)	3.6 (3.7)	4.0 (3.9)	3.9 (3.8)	3.8 (3.8)	3.8 (3.7)

〔学力を伸ばした児童の割合〕(%)

	R4→5		R5→6	
	国語	算数	国語	算数
5年	—	—	68.0 (66.3)	52.0 (56.0)
6年	88.5 (86.4)	76.9 (75.7)	53.6 (44.9)	85.7 (58.6)

〔調査問題〕

	問題番号	要因(何を課題と考えるか)
国語	4	漢字の意味を理解や熟語の構成を理解していない。学習した漢字を日常的に使うことができていない。
算数	8(2)	問題文から、答えをイメージしたり見当をつけたりすることができていない。平均の求め方や意味理解が十分でない。



【分析】※ 今年度の結果に対する評価及びその要因を記入

評価 (結果をどう見たか)

※ 「学力の伸びを把握する調査」についても記載する

- ①…○記述式の問題においては全国平均を上回っている。
- ②…○最後まであきらめず、ねばり強く問題文を読んでおり、無答率が非常に低い。
- ③…△漢字・主語述語・教科特有の用語の意味理解といった知識・技能に課題がある
- ④…△言葉の意味について文脈の流れで解釈していく事に課題がある。
- ⑤…△複数の資料を同時に比較分析することが難しい。

要因 (なぜそのような結果になったか)

- ① ②国語科「書く」単元や、算数科において、条件を満たして書いたり説明したりする授業を行っている。
- ④読書量が少なく、内容を理解しながら長文を読むことに抵抗がある。
- ④課題解決の際、タブレットから得られる情報を精査するなど、思考力や判断力を育成する指導が十分できていない。
- ③⑤教科特有の用語の意味理解が十分でない。(言葉だけを知っている状態)
⇒知識を確かなものにするための活用場面が少ない。
⇒学習内容の反復、6年間を通しての系統性や教科等横断的な視点をもった継続的な指導が十分ではない。(学びの関連性・継続性を把握し、児童にも意識させる指導に至っていない。)
⇒教科書の内容を学習したことで児童も教師も満足している。
- ③④自分の考えを書いたり伝えたりする活動において、言葉にこだわってその意味や効果を追求したり説明したりするところまで指導していない。
- ③～⑤“イメージする(想像力を働かせる)”場面が少ない。

【今年度の取組】

※ 分析と仮説に基づき、取組と検証方法を記入

仮説 一つ一つの言葉にこだわって意味を追及したり、場面把握したりする授業を行えば、文脈から言葉の意味を想像したり、問題場면을適切に把握したりするイメージ力(想像力)が育まれ、思考・判断・表現力が向上するだろう。

取組

ドリルタイム…『基礎学力醸成 Time』
☆言葉と意味をつなぐ想像力
【国語】…漢字、文法、辞書引き
→短文作り
【算数】…学習単元に係る前学年までの学習内容
授業…『実践力構築 Time』
☆言葉と場面をつなぐ想像力
【国語】…文脈から言葉の意味を想像する場面を設定する。
【算数】…問題文から問題場面や答えを想像する場面を設定する(導入)
問題場면을図や絵に表す
→ノート評価(80%以上ができる)
校内研修…『活用力研鑽 Time』
☆学びをつなぐ想像力
【算数】…データの活用、情報過多
【教員】…研修で学んだことを日々の授業へつなぐ。

検証方法

※ 仮説を検証する
☆学期末テスト
(国算の表裏各)
60点以上を80%
☆教師作成テスト
①データの活用
②情報過多
(①②いずれか60点以上を80%)